

長政策第000032号
令和7年4月22日

長浜市総合計画審議会
会長 岩寄 博論 様

長浜市長 浅見 宣義

長浜市総合計画の策定について（諮問）

長浜市総合計画の策定にあたり、下記のとおり貴審議会の忌憚のないご意見、ご提案を賜りたく、ここに諮問します。

記

- 1 別添「長浜市の未来図」を基本的なコンセプトとして、将来の「長浜市がめざすまちの姿」について、ご意見、ご提案を求めます。
- 2 策定する長浜市総合計画について、どのような表現や手法等で市民等に対して共感を得ていけば良いか、ご意見、ご提案を求めます。

以上

開かれたシビックプライドで、“7つの輝き”が織りなすまちへ

1 「開かれたシビックプライド」は長浜市の背骨（未来を創るカギ）である

（1）本市は、少子高齢化と人口減少という避けられない課題に直面しています。本市もまた消滅可能性自治体に近づいている現状にありますが、それを乗り越え、持続可能なまちを築くためには、本市が魅力あふれるまちであることが必要です。そのため、市民一人ひとりが自信と誇りを持ち、夢を追い求めることが不可欠です。

（2）本市は、古くから自治の歴史を持ち続け、その自治の歴史がまちの発展に大きく寄与してきました。菅浦文書に代表される自治的な惣村から、城下町長浜の町衆による繁栄、明治期以後の独自の経済力によるまちづくり、昭和50年代以降の長浜城の再建、JRの直流化、大学の誘致、そして黒壁による観光客の増加など、これまで長浜で生き、暮らしてこられた方々の創意と努力によって多くの成果を上げてきました。本市では、現在でも自治会加入率が約92パーセントと県内一を誇るなど、自治の歴史を受け継いでおり、地域活動も非常に活発です。

（3）こうした自治の歴史から、本市には自分たちがまちづくりに主体的にかかわり、まちを自分たちで築いていこうというシビックプライドが根付いており、これこそが本市の市民の心の中核にあり、本市の背骨とも言える精神です。この精神は、その性質上、民主主義の基本にも根ざした価値あるものであり、日本や世界に誇れるものです。また、本市は歴史的に外部との交流を積極的に行い、技術や知識を取り入れてきた進取の気性を持っており、本市のシビックプライドはもともと「開かれた」性格を有していました。

現在の人口減少の状況を鑑みると、自分たちの力だけに頼るのではなく、外部の意見や力を活用し連携することが特に求められます。これからの本市のシビックプライドは、市内外からの意見や力を呼び込む「開かれたシビックプライド」であることを改めて意識する、これが本市の未来を創るカギです。

（4）行政は、市民の自主性やシビックプライドを最大限にサポートします。他の多くの地方都市と同様に、本市も厳しい財政状況に直面しており財政規律を守るとは当然の責務です。しかし、どの分野においても、市民の皆さんの自治力や開かれたシビックプライドが発揮される場面を応援し、ともに取り組んでいくことになります。

（5）本市は、京阪神地方、東海地方、北陸地方の結節点に位置し、その地理的優位性を活かして長い歴史と繁栄を誇り、数多くの地域資源を有しています。「開かれたシビックプライド」の下で、これらの特色ある地域資源、「輝き」を最大限に活用し、それぞれをさらに磨き上げて魅力に満ちたまちを目指していくことが重要です。

具体的には、これまで本市で培ってきたものの中でも、特に特徴や価値のある地域資源にかかる7つの分野「7つの輝き」に力を注ぎ、まちの輝きを高めていきます。個々の輝きを磨き上げるだけでなく、それらを織りなしハーモニーを生み出すことで、新たな輝きを見出していきます。

(6) 本市では、人口が減少する中で、人口が増加する時代に創られてきた社会システムに軋みが生じ、それを維持するのが多方面で難しくなっています。そのため、本市の輝きを高めていくためにも、従来の社会システムの改革が避けられません（長浜大改革の必要性）。この未来図からはじまる次期総合計画の策定もその一環です。そして、計画策定においても「開かれたシビックプライド」の考え方のもとに、市外の意見も取り入れながら、長浜市民の議論と力を活かした方法論を採用することが重要です（長浜に集まる英知を結集した「長浜改革会議」での未来志向の議論）。

2 7つの輝きによるまちづくり

【体系】

	1	2	3	4	5	6	7
背骨	開かれたシビックプライド						
輝き	こども若者	健康・医療・福祉	歴史・自然・観光	産業	教育・文化	安心・安全	進取の気性
目指すまちの姿～輝き～	こども若者を「主人公」にするまち	健康医療を誇りにするまち	歴史・自然・創造が交わる観光のまち	未来を切り拓く産業のまち	学びと文化が共鳴するまち	先人の叡知と努力に根差した持続可能なまち	果敢に挑戦をつづけるまち

輝き1 こども若者 ～こども若者を「主人公」にするまち～

【これまで培われてきたもの】

本市では、曳山祭や地蔵盆といった伝統行事を通じて、子どもを大切にする文化が長い歴史の中で培われ、それが現在まで継承されてきました。特に、曳山祭における子ども歌舞伎は、子どもが祭りの華やかな主役として脚光を浴びる象徴的な存在です。一方、若衆をはじめとする地域の支援があってこそ祭りは成り立っており、若衆は祭りの屋台骨を支える主役として重要な役割を果たしてきました。このように、本市のこども若者文化は、単に彼らを大切にするだけでなく、彼らを主役として位置づける独自の特色を持っています。

【目指すまちの姿～輝き～】

人口減少が進む中、地域の将来を担うこども若者世代をより一層重視し、彼らを守り育む

存在としてだけでなく、地域社会の主人公として明確に位置づけることが大事であり、このアプローチは本市のさらなる魅力として輝きを増すことになります。このためには、こども若者への経済的な支援をすることや成長のための環境整備をすることだけではなく、彼らが本市に愛着を持ち、積極的に関わりながら、まちの「主人公」として活躍できるような取組を市民とともに推進することが必要です。これにより、本市はこども若者と共に輝く未来を築く地域として発展していきます。

輝き 2 健康・医療・福祉 ～健康医療を誇りにするまち～

【これまで培われてきたもの】

本市は、人口 11 万人規模でありながら、4 つもの病院を有しています。これにより、県の地域医療構想において、本市は湖北地域の医療の中心地として認識されており、将来的には湖北・湖東地域全体の医療圏域の中核となり得る位置にあります。また、市内には多数の個人開業医が活躍し、研修体制も充実しているため、多くの若い医師が集まり、広域にわたる診療体制が確立されています。特に家庭医学や総合診療に注力する診療所があり、4 つの病院と役割分担を果たせる開業医と診療所の体制が整っています。さらに、長年にわたる 1,000 人献血運動や、1,600 人以上の市民が加入する日赤奉仕団、明治初期に地元の名望家有志によって設立された社団法人伊香相救社による救恤（きゅうじゅつ）・救済活動など、医療福祉を支える市民の熱心な活動体制があります。このような背景から、本市は医療を誇りにするまちとしてふさわしい存在といえます。また、地元の特色あるスポーツの振興にも力を入れており、健康面でも多種多様な取組を展開しています。これらの要素が相まって、住みやすいまちの重要な要素となり、本市の大きな魅力となっています。

【目指すまちの姿～輝き～】

健康面で予防医学的な対策を重視し、治療を受けず健康に暮らす人を増やす取組が重要です。健康面の取組として、地元の特色あるスポーツ（アメリカンフットボール、柔道、相撲、ソフトテニスなど）の普及と参加を促進し、市民全体の健康意識を高めていくことが期待されます。医療面では、増え続ける医療費をできるだけ抑制しつつ、持続可能でかつ高度医療も日常的な医療も共に充実させる体制づくりが必要であり、市民一人ひとりが健康に暮らせる環境づくりと、高水準の医療・福祉サービスを提供できるまちを目指します。

輝き 3 歴史・自然・観光 ～歴史・自然・創造が交わる観光のまち～

【これまで培われてきたもの】

本市は、琵琶湖・余呉湖、竹生島、そして北部から伊吹につながる山系など、多くの自然資源に恵まれています。また、観音、戦国史跡、城下町遺跡、鉄道遺産などの豊富な歴史遺産も存在しています。昭和 50～60 年代にかけてまちの勢いが一時衰えた時期にも、長浜城歴史博物館や黒壁ガラス工房などによる新名所づくりを推進し、「博物館都市構想」をまちづくりの基本として策定しました。その結果、年間数百万人の観光客が訪れる観光のまちと

しての勢いを取り戻し、観光をまちづくりの大きな柱にして成功してきました。この努力の積み重ねにより、「長浜市」は全国的に知名度が高まり、多くの人々に愛されるまちとなりました。

【目指すまちの姿～輝き～】

本市の魅力をさらに発展させ、日本人観光客だけでなくインバウンド観光客も増やし（あわせて目標年間 1,000 万人）、持続可能な観光地としての地位を確立することです。これを実現するためには、「稼ぐ観光」の意識を市民や観光事業者と共有し、その実践に努めることが重要です。また、市内の観光地及び観光事業者の連携を強化し、周遊観光の具体化を図ります。さらに、これらを推進するための体制整備を行い、観光客が快適に楽しむことができる環境を整え、本市を世界に誇る観光地へと進化させます。また、医療分野との連携により「医療ツーリズム」を展開するなど他分野とも連携して新たな観光のハーモニーを創り出すことも考えられます。

輝き 4 産業 ～未来を切り拓く産業のまち～

【これまで培われてきたもの】

本市は、江戸時代中期以降、浜ちりめん、浜蚊帳、浜ビロードなどの繊維産業と琵琶湖の海運を利用した産業の発展により輝きを放ってきました。戦後、繊維産業の衰退に直面する中でも、自動車関連産業等への見事な産業転換を果たし、現在でも製造業の生産高は大きく、地域経済を支えています。さらに、地元でヤンマーという大企業が育ち、三菱樹脂（現三菱ケミカル）、日本電気硝子、キヤノンなどの大企業を誘致し、多くの雇用を創出してきました。また、昭和 40 年代、50 年代には全国に先駆けて圃場整備や国営の水路整備を行い、農業の生産高を向上させるとともに、農業の大規模化や水田の転作なども進めました。このように、本市は時代のニーズにあった産業を発展させ、地域の繁栄を築いてきました。

【目指すまちの姿～輝き～】

地の利を活かした企業立地に繋げるため、成長が期待できる産業分野の企業への働きかけをはじめ、本市への企業進出や本社機能の移転を促進し、地域産業の多角化と雇用機会の増大を図り、時代に合った新たな産業の創出・育成と発展を目指します。市外からの企業誘致やそのための条件整備、インキュベーションハブの活用をはじめとした地元企業の応援、起業や創業を目指す人材の育成支援や雇用の確保が重要な課題となります。また、農業分野においても農地集約やスマート農業の推進等、次世代の農業を強く推進していきます。

これからも、時代に合った産業を支援し、持続可能な経済発展を遂げるまちを実現します。

輝き 5 教育・文化 ～学びと文化が共鳴するまち～

【これまで培われてきたもの】

本市は、明治の早い時期から教育に力を入れ始め、県内最初の小学校である開智学校を設置しました。そして、普通高校の他に、農業高校や商業工業高校などの実業高校を開校し、

実業家や政治家を育成してきました。昭和～平成時代には、地方都市ながらも大学を2校誘致し、高等教育にも力を入れ、地元の幼児教育から高等教育までの担い手を育て、バイオ分野での人材育成にも貢献してきました。

文化面では、本市は古くから仏教文化を育み、中世には猿樂という芸能の拠点となり、近世以降には町人のまちとして繁栄し、まつり、詩歌、庭園、書画、音楽などの文化を発展させてきました。最近では、市民オーケストラや吹奏楽団、市民参加型の演劇、少年少女合唱団など多彩な文化活動が活発に行われています。こうした教育・文化活動の歴史と実績は、本市の大きな魅力となっています。

【目指すまちの姿～輝き～】

今後、本市は教育において、人口減少下でも初等教育から高等教育まで、各種の学校が幅広く持続的に存続し、学びの場が確保されていることが重要です。教育の内容面では、確かな学力（IT教育やAI教育を含む）、豊かな人間性、健康・体力の3つを柱とした「生きる力」の育成を目指します。

文化面では、現在の文化活動の維持に加え、新しい分野も取り入れ、市民の文化活動への参加範囲を広げ、内容的にも深みのある取組を推進します。教育・文化活動は、まちの真の豊かさを示す一つの指標であり、その積極的な展開が求められます。本市は、学びと文化のフィールドが豊かで、多様な活動が発展していくまちを目指します。

輝き6 安心・安全 ～先人の叡知と努力に根差した持続可能なまち～

【これまで培われてきたもの】

本市は長い歴史の中で、水との闘いを続けてきました。治水面においては洪水被害を防ぐため、また利水面においては田畑などに不足する水資源を確保するため、先人たちは知恵と努力を尽くしてきました。治水の分野では、高月町西野の隧道（江戸時代にノミと槌で掘られた放水路）や旧虎姫町の田川カルバート（田川と高時川が立体交差するように改修された水路）などがその代表例です。また、利水の分野では、東上坂町の樽番（姉川からの引水を公平に分配する仕組み）や木之本町飯浦の余呉湖補給揚水機（渇水時に琵琶湖から余呉湖へ水を揚げ、幹線水路を通じて湖北全域に水を流す揚水機）などが設置され、地域の生活を支えました。

明治42年に発生した姉川地震は、岐阜県の西部から滋賀県の伊香郡、犬上郡にかけて広範囲に甚大な被害を及ぼし、死者35人、負傷者643人、全半壊した家屋は3,300戸を超えました。この未曾有の災害に際し、各地からの多くの救援が湖北一円に向けられました。坂田郡の青年団37団体2,171名は手弁当で被災者救助に急行し、長浜病院の医師や開業医らによる救護活動や日本赤十字社病院救護班の被災地への出張、妙法寺住職らによる負傷者への慰問など多くの支援が行われました。こうした支援を受け、湖北の人々は果敢に災害に立ち向かい、助け合いながら復興を果たしました。

本市は、このような先人たちの経験と努力により、地域のすべての人々が安心して暮らせ

る基盤を築いてきました。

【目指すまちの姿～輝き～】

昨今、大地震の発生や気候変動による風水害の多発、さらには特殊詐欺や闇バイトによる強盗事件など、防災及び防犯の重要性はますます高まっています。本市は、安心安全を確保するために先人たちの精神を引き継ぎ、積極的に課題解決に取り組む姿勢を維持続ける必要があります。

さらなる「安全・安心」を実現するために、地域の個性と住民の知恵をフルに活用した持続可能なまちを目指します。大地震や気候変動による風水害に対しては、一層強固な防災インフラの整備や防災情報ネットワークの構築を目指します。また、防災教育やコミュニティの絆を深める活動を通じて、すべての世代が共に支え合う地域を実現します。一人ひとりの住民が心身ともに健康であり続け、地域が一体となって様々なリスクに対応できるためのサポート体制を強化していきます。災害応援協定を通じて民間会社と協力を進め、移動式宿泊施設や水の供給等、「自助・共助・公助」に加えて「民助」の輪をさらに広げ、誰もが安心して暮らせるまちの実現を目指します。

輝き 7 進取の気性 ～果敢に挑戦をつづけるまち～

【これまで培われてきたもの】

本市は、これまでの時代における数々の社会的課題に果敢に取り組んできました。前述のように、戦後繊維産業が衰退した際には、自動車関連産業等への見事な産業転換を果たしました。また、昭和 40 年代から 50 年代にかけて、全国に先駆けて圃場整備を行い、国営水路も整備することで農業の生産高を引き上げました。さらに、昭和後期のまちの勢いが衰えた時期には、「博物館都市構想」を掲げながら、長浜城歴史博物館や黒壁ガラス工房など新しい名所を創造し、美しく住むまちづくりを進めてきました。このように、本市は常に進取の気性を持ち続け、官民一体となって社会的課題に取り組む文化を築き上げてきました。

【目指すまちの姿～輝き～】

時代の変化にしなやかに対応しながら、これまでの経験と実績を基盤に、豊かな歴史資産と先端産業の融合を目指し、一層の産業振興と観光振興を推進します。また、DX の進展などを踏まえた農業のあらたな可能性にも引き続き注力着目し、持続可能な生産体系の確立を目指します。さらに、脱炭素など地球規模の課題に対しても、積極的に取り組みます。これらの課題解決において、進取の気性をさらに高め、生かしていくために、民間の創意工夫と挑戦を、公共が支え、応援していくような官民共同でのプロジェクトを推進し、市民一人ひとりがまちづくりに主体的に参加する仕組みを作り上げていきます。

●「地域の強みを活かしたまちづくり」

本市は琵琶湖よりも大きな面積（681.02 ㎢）を有し、9 つの市町が 2 度にわたって合併して成立しています。旧郡単位では、3 つの郡にあたる地域（伊香郡、東浅井郡、坂田郡のう

ち旧長浜市の市域）が合併したことになります。これにより、山、川、平野などの地形や気候等自然的条件が異なる地域がいくつも存在し、それぞれの地域の条件や資源を活かして発展し、それぞれの歴史を築いてきました。このような背景から、本市の各地域の強みも、自然的条件や歴史、産業基盤等において大きく異なっています。

今後の市の地域の維持発展には、本市としての一体感を前提にしつつ、それぞれの地域の強みを活かした取組が求められます。具体的には、大きく4つの地域に分け、それぞれの特色を活かしたまちづくりを進めます。

① 北部地域（西浅井、余呉、木之本）

奥琵琶湖、賤ヶ岳、余呉湖、観音、式内社、木之本宿など、自然的・歴史的資源が多数存在し、広大な山林を有しています。この地域では、観光、林業、農業を重視した取組を進めます。また、少子高齢化や人口流出が市内で最も進んでいる地域であることを踏まえ、北部振興の視点に立った支援を行います。

② 中部地域（木之本、高月、湖北、虎姫、びわ、浅井、北郷里）

国営の水路を備えた広大な農地が広がり、稲作だけでなく、大麦、小麦、大豆、野菜、果物づくりが盛んです。農地の集積化や集約化が進み、大規模農家も多く存在します。また、高月町高月、川道町・細江町、大路町・西主計町、東上坂町等では製造業が集積しており、観音の里、小谷城跡、水鳥公園など観光資源も豊富です。この地域では、農業と工業、さらには観光を強みとしたまちづくりを進めます。

③ 中心市街地等旧長浜市街地

城下町遺産が数多く残り、長浜城、黒壁、大通寺を中心に観光客を集めています。本市の商工業の中心地であり、都市機能や人口も集積しています。この地域では、観光、商工業、住宅地といった強みを活かしたまちづくりを進めます。

④ 南長浜地域

琵琶湖や田村山・神田山などの豊かな自然環境のほか、大学、高校、病院、介護福祉施設、JR 田村駅、インキュベーションセンター等の施設が存在し、令和11年頃には（仮称）神田スマートインターチェンジの開設が予定されています。新幹線の米原駅にも比較的近接しています。この地域では、「まじわり、未来がそだつまち」をコンセプトに、新たな産業や人口の集積地としてのまちづくりを目指します。

未来図対応事務事業一覧

	1	2	3	4
輝き	こども若者	健康・医療・福祉	歴史・自然・観光	産業
目指すまちの姿 (未来図)	こども若者を「主人公」にするまち	健康医療を誇りにするまち	歴史・自然・創造が交わる観光のまち	未来を切り拓く産業のまち
令和4年度～令和6年度で実施済み又は実施中の事務事業	・若者のスタートアップ応援（N-LAPの実施） ・大学生の長浜でのフィールドワーク支援 ・長浜市役所まちあそび部の開催 ・子育て世帯・若者夫婦の新築住宅建築・購入支援 ・こども若者ボイスの実施 ・高校生大学生のサードプレイス（itteki）の開設 ・ひとり親家庭等の子どもの成長に必要な養育費支援 ・子どもの居場所づくりの促進支援 ・妊婦・子育て家庭が安心して妊娠・出産・子育てできる支援体制の強化 ・子育て支援アプリの導入 ・AI等を活用した保育所入所調整事務のデジタル化 ・高校生までの医療費の無料化支援 ・子ども食堂等活動団体に対する開催支援 ・子育て世帯・若者夫婦のZEH住宅等の新規建築・購入支援 ・長浜 kimono AWARDSの開催 ・西浅井提灯祭りの開催応援 ・リンクアップフェスタの開催支援	・病院再編の推進 ・湖北病院・湖北やすらぎの里施設の建替整備 ・産婦人科医師及び小児救急医療体制の確保支援 ・0次予防コホートの実施 ・1,000人献血運動の実施支援 ・明治国際医療大学との包括的連携協定の締結及び健康増進につながる取組の実施 ・地元の特色あるスポーツの振興 ・国スポ、障スポのリハーサル大会の実施 ・手話で共に暮らす長浜市手話言語条例の制定 ・長浜こども家庭センターの開設 ・多機関協働による重層的支援の展開 ・医療型短期入所施設の体制整備支援 ・児童発達支援等利用者への負担金助成支援	・長浜450年戦国フェスティバルの開催 ・長浜観光連携プラットフォームの設立 ・長浜 kimono AWARDSの開催 ・西浅井提灯祭りの開催応援 ・滞在型観光の促進に向けた観光MaaSシステムの構築 ・全国山・鉾・屋台保存連合会総会長浜大会の開催 ・観音の里・祈りとくらしの文化伝承の促進 ・（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムの整備 ・北近江豊臣博覧会実行委員会の設立 ・黒壁、長浜地方卸売市場及びえきまち長浜の経営改善に向けた取組支援	・まちなかの遊休不動産活用に対する支援 ・まちなかの新たな魅力アップコンテンツ創出支援と地域一体となった暮らしに滞在する観光地づくり支援 ・市場ニーズを持つ事業者と連携した農業経営安定化の支援 ・持続可能な地域農業に向けた機械設備の導入支援 ・「人・農地プラン」を基に地域計画の策定支援 ・大麦、加工用トマトの6次産業化の推進 ・高専の誘致運動と近隣市町との協力 ・工場用地の面積制限（特定用途制限地域）の緩和 ・長浜バイオ大学産学連携人材育成コンソーシアムの設立支援
今後計画及び実施を検討する事務事業	・子育て世帯・若者夫婦の新築・リフォーム補助支援 ・こども若者ボイス提案事業の実施 ・PVコンテスト((こども若者＋大人)×企業)の実施とシブプロモーション特設サイトの制作 ・((こども若者＋大人)×長浜カワリ)創出プロジェクトの実施 ・万博から繋がる子どもたちの世界への夢の道プロジェクトの実施 ・ババママ・リフレッシュ託児（長浜版こども誰でも通園制度）の実施	・スポーツ・健康まちづくりの推進（ながはま健康フェスティバル等の実施） ・国スポ、障スポの実施及びそのレガシーの継承 ・広域的な診療所体制の確立 ・杉野・余呉・西浅井等の診療所維持形態と湖北病院との関係の検討	・北近江豊臣博覧会の開催 ・文化財や史跡を保存するための費用を稼ぐ観光の推進 ・自然資源と歴史遺産を生かすストーリーの作成と周遊観光のルート設定 ・歴史保存団体と観光団体の協力体制の確立 ・観光協会・まちづくり会社の連携 ・西浅井総合サービス、ロハス長浜及びふるさと夢公社きものとの連携強化	・新規産業用地の開発促進 ・神田・長沢地区の産業用地開発・同地への企業誘致 ・地元企業の希望に沿った産業用地の確保 ・乾田直播等スマート農業の推進 ・中小企業者人材確保の支援（若者の奨学金返還助成） ・バイオサイエンス分野におけるオープンイノベーションの推進 ・若者就農環境整備の支援（園芸栽培拡大・スマート農業の促進） ・保育者確保！「保育者就労支援」

	5	6	7
輝き	教育・文化	安心・安全	進取の気性
目指すまちの姿 (未来図)	学びと文化が共鳴するまち	先人の叡知と努力に根差した持続可能なまち	果敢に挑戦をつづけるまち
令和4年度～令和6年度で実施済み又は実施中の事務事業	・長浜スタイルによる授業改善 ・QubenaをはじめとしたICT教育の推進 ・学力向上プロジェクトチームの設置 ・中学校部活動における地域移行の一部実施 ・フリースクール等民間施設利用者への利用料助成支援 ・教育DXの推進 ・市民で支える小学校給食費の補助支援 ・地域と学校の連携と協働による「生きる力」の育成 ・長浜バイオ大学産学連携人材育成コンソーシアムの設立支援 ・キッズアートフェスティバルの開催 ・長浜市民創造ミュージカルの開催 ・ポップカルチャーフェスティバルの開催支援	・デマンドタクシー運行エリア（浅井、虎姫、びわ、湖北）の拡充 ・消防庁舎の移転統合整備 ・消防団の体制強化 ・消防団員の待遇改善 ・防災に「民助」的措置の拡充 ・災害時における移動式宿泊施設の提供に関する協定締結 ・国道365号栃ノ木峠道路整備の要望 ・防災無線の利用拡大（行方不明者の探索に活用） ・わんわんバトロールの実施 ・郵便局との包括連携協定締結による見守り支援 ・防犯カメラ搭載自販機の設置 ・買い物支援事業の導入、拡大 ・自治会活動デジタル化の促進支援 ・空き家の現状把握、利活用及び適正管理の促進 ・農業用ため池の耐震改修 ・市民のいいね長浜会議の連続開催 ・パートナーシップ宣誓制度の導入	・ゼロカーボンシティに向けた取組の実施 ・長浜市ゼロカーボンシティ宣言、ながはまゼロカーボンビジョン2050の策定 ・環境エージェンシー、地域新電力会社の設立・運営に対する参画と協力 ・地球温暖化防止に向けた宅配ボックスの購入設置支援 ・新商品開発、情報発信の改善によるふるさと寄附金の拡大 ・未利用財産の利活用（旧杉野小中学校、旧つづらお荘等） ・「南長浜まちづくりビジョン for 2050」の策定 ・長浜バイオ大学の包括的改革に向けた検証や方針検討 ・長浜バイオ大学産学連携人材育成コンソーシアムの設立支援 ・丹生ダム建設事業中止に伴う地域整備実施計画に基づく地域振興策の推進 ・国道365号栃ノ木峠道路整備の要望 ・デジタル技術活用による地域課題解決に向けたDX実証実験の実施 ・変動型最低制限価格制度の導入 ・週休2日取組指定型工事入札制度の導入 ・職員提案による事務の効率化・スリム化の推進 ・期日前移動期日前投票所の開設（余呉、西浅井地区で希望7自治会） ・投票場所の改善（びわ南地区） ・市議問題行動の議会への改善申入れ
今後計画及び実施を検討する事務事業	・高校生長浜留学の応援支援（虎姫高校 国際バカロレア、伊香高校 森の探求科） ・地元大学進学への誘導 ・長浜文化スポーツ振興事業団の改革 ・地域の交流拠点としての新しい図書館づくり	・少子高齢化、過疎化が進む地域での地域維持のための対応（教育機関、自治会、墓、寺、神社など） ・地域活動・自治組織における女性参画の推進 ・広域行政サービスのあり方検討	・公共施設での太陽光発電を推進するPPA事業の展開 ・ガバメントクラウドファンディングの実施 ・時代の流れに合わせたインフラの利活用（空き家や廃校） ・「南長浜まちづくりビジョン for 2050」に基づく事業推進 ・投票場所の改善（長浜地区） ・市民サービス窓口の再編 ・長浜版営首討論の実施